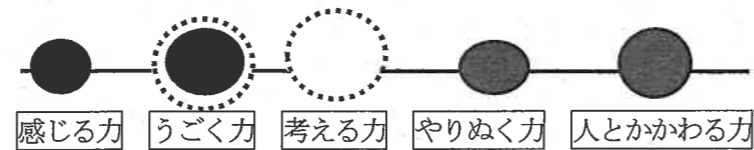


どうしたの? 5歳



活動の様子

5月、A児は、集団の中で自分から思いを発信することが難しく、友だちに話かけられても答えることができなかった。その姿から、A児が安心して思いを発信できるように、友だちとの関係を深めていくことを意識し関わってきた。また、A児は自分に自信がないため、考えてはいても伝えることができない姿があった。A児が何か一つでも自信をもって取り組めることを探し、そのことから、自信をもっているいろいろなことに取り組めるように意識してきた。

年長児がいもほりに行ったことをきっかけに、掘ってきた芋をどのように使うか、話し合う。  
9人で話し合い、芋は焼き芋にし、段ボールで「石焼き芋車」を作って売ることになった。

「車だから、窓も開けよう。」

「運転席は?」

「芋はここから渡すことにしよう!」

と、それぞれアイデアを出して、作っていく。

A児は、集団になるとなかなか自分の思いをはっきりと言葉で伝えることが難しい姿があり、R児や、H児が仲立ちとなって、思いを伝えて過ごしていた。

(普段の仲間関係の中では、思いをはっきりと伝えられる)

朝、登園した子どもから石焼き芋車を作っていた。A児も一緒に輪に入り、作っていた。この日、A児は出来上がった時に会計の役をしようとお金を握りしめて、作業をしていた。(その思いは、R児にだけ伝えていた)

S児「Aちゃん、まだやらんけんお金置いとって!こっち手伝って!」

A児「.....」 (その場から離れる)

A児が離れていたことには、誰も気づいておらず、しばらく時間が経つ。

気付いていた保育者が、しばらくしてから、H児に「Aちゃんどうしたの?」

と聞くと、「わからん...。」と言う。H児はすぐに側に行き話しかける。

すぐに、帰ってきて、「何かが嫌なんだって」と言う。保育者は「そうなんだ。」

と言い、気付いた子どもたちがどのように関わるか見守ることにした。

すると、R児が気付き、側に行き、話しかける。「どうしたの?」「何か嫌だった?」

とA児の答えが返って来るまで質問する。10分以上二人で話し込み、R児は他の

友だちに助けを求め、他の子どもたちも気付いて、「どしたん?」と聞きに行く。

最終的に、R児がA児の気持ちを聞き、他の子どもにも伝えに行く。A児の

気持ちを理解した年長児たちは、A児を誘いに行くが、気持ちの切り替えは難しく、

その場で戻ってくることはできなかった。

戸外遊び後のタイミングで、H児が「やる!」と言葉をかけたことで、

活動に戻って来る。その後、自分の思いをちいさな声で発信する姿があった。

この遊びの中で育まれている力

年長児で、アイデアを出し合い、協力して、遊びを進めて欲しいという思いがあり、年長児のみでの活動を計画した。

・自分の思いを相手に伝え、イメージを共有する。  
【人とかかわる力】

・安心できる仲間の中で、思いを表現できる。  
【人とかかわる力】

・気の合う友だちに言葉をかけられ、安心して話すことができた。【うごく力】

・A児は、自分の気持ちをごまかさず素直に表現できている。【うごく力】

・友だちの変化に気付いて、言葉をかける。  
【うごく力】【感じる力】

・保育者は、3人の関係が深まってきていることが分かっていたから、見守ることができた。

・A児の性格を理解し、A児の気持ちを引き出すように話す。【感じる力】【考える力】

R児はA児を大切に思っていたから話続けた。仲間関係が深まってきている。

・R児に助けられ、自分の気持ちを素直に話す。  
【人とかかわる力】

・R児は、困った時に仲間助けを求めた。自分たちで解決する力が身についている。【人とかかわる力】

・戸外遊びを挟んだことで、気持ちを切り替えることができた。【うごく力】

・友だちに助けられ、自分を表現する。【うごく力】

この遊びの中で学びを支えたもの

【年長女児の仲間関係】

普段の生活、遊びの中でお互いの性格を理解し、受け入れ合っている姿がある。時には、ぶつかったりもしながら、自分の思いを表現して過ごしている。

今回の、事例の中でも、集団での思いの発信が難しいA児の姿に気付き助ける姿があった。

また、A児も助けられることで、思いを発信していた。

【年長児の仲間関係】

A児の性格は知っていながらも、お互いに自分の考えたことを伝えることができる関係ができている。

また、友だちの変化に気づき、言葉をかけに行ったり、特性を思いやる心が育っている。

【見守る担任の存在】

この頃になると、友達と思いを出し合って遊ぶ中で、互いの個性を受け入れ違いを理解する中で相手への気遣い、助け合う姿が見られてきている。友だちを思いやる心が育っているととらえ、子どもたち同士で、困難を乗り越えられるように、間接的に援助をした。

担任が直接A児に声を掛けなかったことで、子ども同士の関りが生まれたのだと思う。

担任の温かな眼差しに見守られていることが、思いを出し合いながら安心して遊びを進めていく姿として表れている。

A児に対して、5月の姿から、配慮をして関わってきたことが、A児の成長に繋がっていると思う。



ふりかえり

5月には、トラブルに対し保育者も一緒に入り、解決に向け話を進め援助していた。友達のいつもと違う様子に子ども同士で、気付き合い、思いを探り助け合う姿からは仲間関係のつながりと育ちを感じた。

また、A児も、5月には友だちに聞かれても思いを発信できなかった姿があったが、今回は、安心できる友だちに助けられて発信することが出来ている。A児にも成長が見えた。

A児はこの事例後、得意なことを友だちや大人に認められた嬉しさが自信になり、さらに積極的に自分の思いを発信するようになっていく。